

平成 28 年度新宿区外部評価委員会 第 5 回会議要旨

<開催日>

平成 28 年 10 月 25 日（火）

<場所>

本庁舎 6 階 第 4 委員会室

<出席者>

外部評価委員（13 名）

名和田是彦、葉袋奈美子、山本卓、青野敏子、犬塚裕雅、小池玲子、小菅知三、小林浩司、鶴巻祐子、野澤秀雄、林直樹、鱒沢信子、安井潤一郎

事務局（5 名）

小泉行政管理課長、池田主査、三枝主査、榎本主任、杉山主任

<開会>

【部会長】

ただいまより、第5回新宿区外部評価委員会を始めます。

本日の委員会は、前回到引き続き、評価のとりまとめを行います。

その後、今年度の外部評価についての感想等を各委員のみなさまにご発言いただきます。

では、次第の1に入ります。「評価のとりまとめ」についてです。

前回は、「適当でない」とした計画事業についての審議を行いました。今回は、そのほかの事業、主に全て「適当である」とした事業について、審議を行います。

これらの事業について、何か意見等あれば、発言をお願いします。感想ということでも構いません。どうぞお願いします。

【副会長】

第1部会では、「適当でない」という評価をする事業もありましたが、やはり大半は所管課の皆様がよく取り組んでいらっしゃるということと、各所管課において適切に内部評価、自己点検をされているということを確認させていただきました。

ただ、そのほかの留意点ということで意見を記載したものがかなりたくさんあります。

例えば、路上喫煙対策については、基本的にはよく頑張っているし、それぞれ評価したことを適当だと判断しましたが、ただ、実感として十分に取り組まれていない、期待どおりに対策が進んでいないということがあり、もう少し実効性のある対策を講じてほしいという気持ちが生み出してくるような意見が委員から出てくるという場面が何度かありました。

例えば、道路などは、整備が早々に進むものではありません。ほかにも、ごみのリサイクル

なども、目標は高く設定しているものの、そう簡単には進むものではなく、やむを得ないような事業が多くあります。しかし、まだ改善の余地があるのではないかというのが、区民が持つ行政に対する期待の部分ですが、行政が何でも全て行うというわけではなく、区民が変わっていくということもしなければならぬということは、評価作業を通じて感じました。

【第2部会長】

取りまとめた後に気付いたことですが、内部評価の文章を受けて評価を行っていたためか文章が行政用語的に偏ってしまったように思います、内部評価だけでなく、外部評価も、全く初めて見る方からするとやや難解な用語ということにもなってしまったかもしれません。

【委員】

計画事業4「生涯学習・地域人材交流ネットワーク制度の整備」ですが、どうしてもやはり新宿未来創造財団のことが気になりました。新宿未来創造財団は、区から補助金や委託金を受けて、非常に多くの区の事業を担っています。

ヒアリングにおいて、しっかりと行っていると言っていました、本当にそうなのかと思ってしまう。これは、外部評価の立場ではなく、個人として感じたことです。

【委員】

今の委員の指摘は、私も同じように感じているところです。

内部評価を見ても、あまり改善が見られないことも気になります。特に、この事業については、区内の人材をいかすという意味で人材バンク制度をつくっているのですが、新宿未来創造財団の事業についてのみ、そうした人材がいかされているというような内部評価の内容となっています。この点については、やはり納得できません。こうした人材は、各地域において、それぞれの実態に合わせて活用されることを期待しているのです。

【会長】

計画事業4「生涯学習・地域人材交流ネットワーク制度の整備」については、前回審議を終えています、今の意見を受けて、事業の方向性の記載の仕方を修正することもできます。こちらについては、少し検討してみたいと思います。

新宿未来創造財団については、組織が肥大化しているという指摘が出ていたかと思えます。そういった観点からの記述を若干付加することを検討させていただきたいと思えます。

前回の審議で終わっているものですが、評価内容をなお十分なものにするという趣意で、このようにさせていただきたいということです。

ほかに何かご意見はありますか。

【委員】

我々が外部評価した内容について、今後、区からきちんと回答をいただけるのでしょうか。

それから、この事業が本当に区民にとって必要なのか、残すべきなのかどうかということを見ていく必要があるのではないのでしょうか。

【事務局】

いただいた外部評価意見については、内部評価も含め、総合計画や実行計画の見直しに反映

するようにしています。

現在、第三次実行計画の2年度目の計画内容の見直しを行っていますが、内部評価や外部評価結果を基に、見直しを進めているところです。意見の内容によっては、すぐに変更できるようなものもあれば、長期計画で進めているためにすぐに対応できないものもあります。それについては、翌年度以降に反映させていくところです。

また、事業の廃止等についてですが、内部評価を外部評価するという原則であり、また、区民の代表である区長と区議会が区民に対して実施を約束した事業ですので、事業そのものの良し悪しを判断するものではございません。

【会長】

ありがとうございます。

我々が行った評価については、この後、区の総合判断が出ますので、そこに外部評価に対する区の対応が示されます。それについて、我々として、評価作業の中でまた活用していくという姿勢が望まれるかと思います。

ほかに発言はありますか。

【委員】

計画事業14「学校の教育力の向上」についてですが、今回、全て「適当である」としていますが、平成27年度はほとんど「適当でない」という評価をしています。今回、全て「適当である」としたのは、平成27年度の外部評価実施結果を見た上でそのように評価しているのかを、第2部会の委員の皆様にお聞きしたいと思います。

大前提として、この事業は、新宿区における小中学校の公教育についての根幹的な事業なのです。最も区民が期待する事業であり、保護者を始め、地域住民全員の願望だと思います。その学校の教育力の向上について、どういうことを教育力というのかがまず見えないという指摘が、前回の外部評価で出ました。この評価結果を見た上で評価をしていただいたのでしょうか。私としては「適当でない」と思っています。

【第2部会長】

ご意見承りました。ありがとうございました。

まず、平成27年度の評価結果を見た上での評価かどうかという指摘ですが、基本的に目を通した上で評価を行っています。その上で、今回は、どのような評価にしようかという議論を進めてきました。

確かに、この事業は、かなり議論があったところだと記憶しています。評価結果としては「適当である」としながらも、その上でいろいろ意見を書き込んでいるところです。例えば、第三者評価に関しては、目的の達成度のところで、全体として見れば目的を達成したと評価できますが、第三者評価においては目標水準に達しなかったということは重視されるべきことであるので、重く受けとめてしっかり対応するようという意見を付しています。このところは、実のところ、本当にこのまま「適当である」としていいのだろうかという意見が強く出される中で、ただ、全体として見るならば、その事業自体の適切性というのは評価しないわけにはい

かない。しかしながら、第三者評価自体に問題があるのではないかという指摘もありましたが、目標水準に達していないということもあるので、その点について重く受けとめてしっかりと進めてほしいという、こちらとしては強いメッセージを込めた意見を書いています。

適切な目標設定についても、学校の教育力の向上について区民に分かりやすい具体的な目標の設定を期待するという意見を付しています。この点は、まさに今委員からの指摘があったように、教育力というものをどう提示して、どういう形で向上していくのかということをもっと明確にして、その効果等も意識しながら、しっかり取り組んでもらいたいという強いメッセージが背景にあります。

一つひとつお読みいただくと、全面的に「適当である」と評価しているというよりは、「適当でない」とまではしないものの、本当にどうなのかということも強く考えながらまとめたところではあります。

第2部会のほかの委員からも、何か補足があればお願いします。

【委員】

私は、今年度から初めて委員になりましたが、先ほど委員が言われたように、過去の評価結果を全て追っていかねばならないのであれば、なぜ委員会を改選するのでしょうか。

私としては、ヒアリングの内容や、これまでの自分の経験などを大事にして、評価を出してきました。結果としては「適当である」となりましたが、第2部会の委員全員が適当だと評価したのだと思われてしまうことは、問題があると私は思います。ですが、各委員の総意によって、取りまとめ案としてまとめられているわけです。私個人としては、全ての項目について意見を書きましたが、最終的な取りまとめ案に、その意見が全て出てきているわけではありません。

前回の外部評価結果が「適当でない」だったのに、今回の外部評価結果が「適当である」だったからと言って、今回の第2部会の評価はどうなのかということと言われるのは残念です。

【委員】

評価する委員が変われば目線が変わるということについて、そのことを否定できないと私は思います。私は、たまたま前回に引き続き評価を行う立場だったのですが、今回、本当に大きく感じたのは、評価するにも年齢、性別、それぞれの生活背景、様々な方たちがいて、この委員会が成立しているということです。今回決して議論をしなかったわけでもなく、それから、前回の評価を全く振り返らなかったということでもありません。

この事業の内部評価について、様々な問題があるということ踏まえた上で、最終的には、このような評価結果になったと感じています。

第2部会の基本的な方針として私が感じたことは、「適当である」としながらも、その上で自分たちの意見をどのように盛り込むのかについて力を入れていたように感じます。5人いる委員の評価をまとめれば、一人の突出した意見を書くということにはなりません。結論としては、第2部会において一生懸命評価してきましたので、そのことについては、お酌み取りいただきたいと思っています。

【事務局】

計画事業14「学校の教育力の向上」については、平成27年度の外部評価において、「適切な目標設定」、「目的の達成度」、「総合評価」の3項目で「適当でない」という評価が出ています。その理由ですが、例えば、教育観が内部評価に示されるべきではないか、区民が評価できるような数値化した新たな指標に期待する、課題解決の方策を明示すべき、どのような教育改革があったか分からないといった、いろいろな指摘をいただいています。

この評価を受けて、内部評価の記載を改善しています。今回の内部評価を議論した結果、「適当である」という評価をいただいたのではないかと考えています。

【委員】

今回の外部評価について、区がどういう形の見直しや反映を行うのかが、一番気になるところです。

【委員】

第2部会の委員ですが、前回の外部評価を読んだのかという意見ですが、もちろん、自分が評価する上での参考に読ませていただきました。

第2部会で議論して、いろいろ意見が出た結果、このような評価結果になったと思っています。前回の評価結果は参考にはさせていただきましたが、今回は今回で、また新たに評価をさせていただきます。

【会長】

それぞれの部会で相当の根拠を持ってご判断いただいています。継続性ということもありますが、新たな期が始まって、また、第三次実行計画への移行に伴う変化等もありますので、評価結果が前回から変わったとしても、そんなに不自然ではないと思うのです。

要は、きちんと議論をされたということがこの場で説明されればよろしいかと思います。

第三次実行計画への移行ということも影響したのか、事務局から説明があったように、前回、外部評価委員会で「適当でない」とした評価を重く受けとめて、内部評価の書き方を変えたといったこともあったようです。それを受けて、第2部会で真摯に議論されて評価したわけで、決して適当に審議をしたということではありません。かなり議論をされた結果、この評価に至ったということですが、いろいろと留意すべき点についても意見を記述されています。

【委員】

私としても、新しい目線で見るとということについては全くそのとおりだと思います。例えば、前回と全く正反対の評価が出てくるというようなことがもし出てきたような場合、全体として特に議論をしていく必要があると思うのですが、どうなのでしょう。

【会長】

まさに、先ほどの事業は、前回の評価を十分に受けとめられた上で、新しい判断をしたということであり、それが望ましいやり方ではないかというのがあります。

逆のケースですが、第3部会が審議した計画事業88「新宿自治創造研究所の運営による政策形成能力の向上」などは、これまでずっと「適当である」となっていますが、今回「適当で

ない」が2項目も出てきました。こういうことはもちろんあっていいわけですが、その場合には、やはり今まで「適当である」としてきたことについて十分考えた上で、第3部会として「適当でない」という評価としようとして、全体会の場でもそのように提案をした次第です。

【事務局】

前回の外部評価で「適当でない」という評価をいただいた事業の中でも、適切な目標設定についての視点が「適当でない」という評価をいただいたものが多かったと認識しています。これについては、区民に分かりやすい目標設定をしなければならないということで、すぐに見直したのもあれば、第三次実行計画から見直したものもあります。

そういったこともありますので、前は「適当でない」と評価していても、今回は「適当である」と評価をいただいているものがございます。今、会長がおっしゃった、計画事業88「新宿自治創造研究所の運営による政策形成能力の向上」のように、毎年「適当である」という評価をいただいできましたが、やはり、そのときの情勢等によって今までと同じような事業を行っていたのではいけないのではないかと評価をいただくこともあります。それについては、やはり「適当である」という評価をいただいたものについても、「適当でない」の評価になることもあります。年度によって、評価が異なっても致し方ないのかなと考えています。

【委員】

ところで、来年度は部会の編成は変わるのでしょうか。

【会長】

最初に説明があったと思いますが、今期はこの編成でいくということだったかと思います。

【事務局】

はい、引き続き来年度も同じ部会の構成を考えています。

【会長】

任期が2年ということですので、変更しないという方針で開始したかと思います。

【委員】

そうすると、同じテーマをもう一度評価するということになるのでしょうか。

【事務局】

評価の継続性という観点からも、次回、また同じ事業を評価していただいて、どのように変わったかを判断していただきたいと思います。

【委員】

今年度は、一通り評価が終わってから現地視察を行いますが、視察によって評価も変わってくると思います。できれば、評価を出す前に視察に行けるようにしていただきたいのですが。

【会長】

現地視察をヒアリング前に実施するということですか。

その件については、スケジュール的に難しい問題があるようですが、評価が一通り終わった後、行政評価の検証を行う予定になっています。その中で検討を行うことになろうかと思いません。

それから、来年度は、全く同じ計画事業を評価するというのではなく、第三次実行計画の事業を評価するので、結構違った様相が見えるのではないかと思います。その点については、私もわくわくしているところです。

【委員】

先ほど、私が大変失礼なことを申し上げて、第2部会の委員の方に前回の評価結果を見たのかと申し上げたところ、全員がよく精査して臨んで、その上で今回は「適切である」という評価をしたということをお聞きしました。委員会としては致し方ないだろうと思いますが、私個人としては、まだ納得しておらず、評価として不適格ではないかとも思っています。ですが、ほかの委員が納得しているのであれば、結構です。

【委員】

第2部会の委員の皆さんがしっかりと議論されて得られた結果については、私はそれを良としています。恐らく、その過程においてもいろいろな議論があって、一人ひとりが自分の考えをまとめています。それらの考えが全て反映されているのではないと思いますが、それはほかの部会でも一緒です。

ただ、第2部会としてこのように結論づけたことについては、特に私は違和感を持ちませんでした。今、議論されている件に関しては、私は第2部会の結果を尊重します。

【委員】

評価が「適当である」か「適当でない」かの二択に分かれてしまうことに問題があるのではないかと思います。中間の選択肢があってもいいのではないかと思います。

今回は、「適当である」か「適当でない」の二択です。時流ということもあれば、第2部会において変わってきた経過も見ようということで評価されたと思っていますので、第2部会が「適当である」としたのはよろしいのではないかと思います。

【委員】

委員一人ひとりの温度差というものがあると、私個人は思っています。非常に興味を持っていたり、そのことにたまたま関わっていたり、それから、初めて評価を経験した方と、継続してやっている方の差もあると思います。

ですから、部会で評価をまとめる際には、その辺りのところを部会長がつかんで結果を出しているのではないかと思います。自分が初めて参加したときや今年度のことを振り返ると、部会は部会で本当に真剣に考えて結論を出しています。部会の考え方は尊重した上で、意見を付すのであれば、補足的として意見を付すほうがいいのではないかと思います。

印象としては、前回の外部評価結果よりも、今回の内部評価結果やヒアリングにおける所管課の説明に非常に重きを持って考えていて、その中でも、各委員がそれぞれ異なる考え方で結論を出されています。やはり、部会の意見を尊重しつつ補足的にこういう意見もあったというところにまとめておくのが私はいいいのではないかと思います。

【委員】

委員の発言やそのやり取りを受けて、一つひとつの事業がとても大切に重要な事業だと感じ

ることができました。

今お話を伺って、第2部会の委員の方々が本当に真剣に話し合っていて、評価を行っていただいたということが分かりました、ですので、評価としては、このままでいいのではないかと思います。

【会長】

ほかにございますでしょうか。

特にないようでしたら、全て「適当である」と評価した事業についても、委員会全体としての評価を取りまとめたということにさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

また、最終的な印刷製本に当たっての、文章の微修正等についても、会長、部会長にご一任いただくということにさせていただいてよろしいでしょうか。

<異議なし>

【会長】

ありがとうございます。

では、次第2「今年度の外部評価について」に入りたいと思います。

外部評価実施結果報告書には、「今後に向けて」という題で、今年度の評価作業を通じて、外部評価委員として実際に活動して感じた課題等を総括意見として掲載しています。

今年度の報告書に記載する総括意見の材料とするため、今年度の外部評価についての感想を、みなさんにお聞きしたいと思います。

それでは、お願いします。

【委員】

評価に参加させていただいて、自分の出した税金がどのように使われているかが分かって勉強になりました。

第1部会の事業は、事業のスパンが長く、また、時流とともに変わっていく事業であり、とても大変だと思いました。内部評価も細かく行って、所管課がそれぞれ一生懸命事業を進めているのだと分かりました。

今後、「適当でない」と外部評価された事業を中心に改善されていくことと思いますが、「適当である」とした事業についても意見を付けています。そちらについても意見を汲んで、次につなげて行ってほしいと思います。

それから、評価区分が「適当である」と「適当でない」の2種類だけでなく、中間の評価区分が必要という意見については、私もそのように思っています。

ありがとうございました。

【委員】

私は、行政評価はやはり難しいと感じました。他自治体の行政評価にも関わっていたが、ここでもいろいろな議論がありました。

外部評価には、合理的で根拠のある内部評価となっているか、事業の進め方や取り組み方は適当なのか、事業の設計そのものが正しいかどうかという三つの要素があり、その時々場面

に応じて強く出る要素が異なるように思います。

評価に当たっては、外部評価委員としての立ち位置を常に確認することが必要だと思います。

特に、事業の進め方や取り組み方は適当なのか、事業の設計そのものが正しいかどうかといった点は業務監査の領域であり、外部評価委員としてそこまで踏み込むかどうかについては、よく議論し、認識を共有しなければ、立ち位置がぶれてしまいます。

私としては、区民としての目線で評価することを意識してきました。

それから、内部評価の形式に窮屈さを感じます。例えば、「達成度が高い」と「達成度が低い」の二択に限定されていることなどがあります。外部評価の評価区分は「適当である」と「適当でない」の二択で良いと思いますが、例えば「目論見どおり」などの評価項目があってもいいのではないのでしょうか。内部評価の評価区分は、議論を踏まえてもう少し見直したほうがいいのではないかと思います。

【委員】

行政評価のしくみが分からないところから始まって、この取りまとめの段階まで、よくたどり着けたと思います。

今回評価した計画事業については、軽重つけられない事業がほとんどであることは認識すべきであり、特定の事業だけに着目して評価するのは危険だと思います。

第2部会においては、評価作業の中で、十分な意見交換ができたように思います。

私のスタンスとしては、ヒアリングと得意分野、今までの経験を中心に評価をまとめており、全事業の全項目について意見を付けたが、やりすぎたかもしれません。また、内部評価の文言だけでなく、ヒアリングや事業経費にもかなり着目して評価しました。

それから、部会編成を変更しないのでしょうか。私は、第2部会を希望しましたが、自分の得意分野ではありません。幅広く区の事業を勉強したいので、できるならば、ほかの部会に入りたいと思います。

いろいろな方からいろいろな意見を聞いて、自分としても大きく成長できたのではないかと思います。

【委員】

外部評価はとても難しかったです。「適当でない」とする場合、それ相応の理由を付けるということでしたが、自分としてはしっかりと理由があると考えていたものでも、部会全体の目から見ると十分でないこともありました。まだまだ勉強が必要だと感じました。

ほかの委員の発言にもありましたが、評価区分は2種類だけでなくもっとあれば、意見が反映されやすいと思うものもありました。

全く知らない事業などもあって勉強になりました。来年度も頑張っていきたいと思います。

【委員】

本日の全体会の審議はとても良かったと思います。評価について、いろいろな矛盾や問題点を出し合うことができました。

これまで、一つひとつの事業を抜き出して評価してきましたが、その事業が大きな政策の中

でどういった位置を占めるのかが大事であると思います。

はっきりした目標をたてて、その目標の達成に向け、一つひとつの事業がどういう位置付け、どういう役割で動いているのかを説明してもらえると、非常に理解が進み、評価がしやすくなると思います。

【委員】

内部評価の作成が難しかったのではないかと思います。内部評価の評価基準に格差があるのではないのでしょうか。

今回評価した事業の中で、「計画以上」と内部評価した事業は一つしかありませんでしたが、もっと自信をもって「計画以上」と内部評価してもいいような事業がいくつかあります。

また、「計画以下」と評価した事業も多かったですが、そんなにあるのかとも思いました。もう少し評価基準を甘くしてもいいのではないのでしょうか。区民にとってもそのほうが分かりやすいと思います。

【委員】

前回の外部評価結果は気になるところですが、今回、どのように変わったかに着目して評価しました。しかし、根幹のところでは変わっていないものをもっと見抜かなければいけなかったという反省もあります。

それから、事業によっては複数の手段があるものがありますが、評価としては一つにまとめています。その手段の中でも重要視しているものを中心に内部評価していますが、一つの評価にまとめるのは難しいと思います。そうした評価の仕方や、評価区分については今後考えていくべきだと思います。

【委員】

前期に引き続き同じ事業を評価してきましたが、今期から部会のメンバーが一新されて、新しい気持ちで評価を行うことができました。

外部評価は、内部評価シートをきちんと読み取ること、ヒアリングを通じて疑問点等に対する所管課長の考えをしっかりと聞くこと、地域の中での活動を通じて事業に対して感じていることを全員で議論して評価に結び付けることにあると思います。私自身、そのように取り組んできました。それは以前から変わっていないプロセスですが、それに関わる委員が変われば、評価の仕方も変わってきます。それは、当たり前なことだと思います。

事業そのものは区長と区議会が区民に約束して実施しているものであり、事業そのものは是非について論じることはできませんが、その事業がより豊かなものとなるよう効果的・効率的に行うための提案は、外部評価委員としてできると思います。今回、様々な提案がなされて良かったと思います。

各委員個人の意見がどこまでいかされたのかは大事ですが、今回の取りまとめ案にはそれが限りなく反映されていると思います。意識を高く持って、次年度も取り組んでいきたいです。

【委員】

これほど多くの事業が行われているということが分かって、勉強になりました。今後も、実質的な審議・調査を行っていきたいと思います。

委員の役割として、通査、審査、精査がある。精査はできないが通査はしようと思って取り組みました。今までの経験で審査を行うことがあり、審査のポイントとして、「成長性」「公共性」「安全性」という視点があったのですが、今回の評価においては、今の時代においてどういう観点で事業を見るべきかを考えて評価しました。まだ任期はあるので、財政面を含めて精査を行えるまでにしていきたいと思います。

それから、前期から引き続きの委員もいるようですが、委員の選定はどのように行われているのでしょうか。

【会長】

新宿区外部評価委員会条例にあるとおり、外部評価委員には学識の委員、団体推薦の委員、公募区民の委員がいます。公募区民の委員は、一定の条件の下に公募され、選定を通過して委員となります。団体推薦の委員は、区内の団体に対して委員の推薦を依頼した結果、その団体が推薦をした委員ということです。学識の委員は、区が依頼して委嘱しています。

では、引き続きご感想をお願いします。

【委員】

内部評価を外部評価するということですが、内部評価だけを確認するだけでは形になりにくいのではないかと思います。縦割り行政の中での内部評価だけでは御しきれないようなものがあるのであれば、特定の事業については外部監査のような形をとることも考えてはどうかと思います。

【会長】

ありがとうございました。

では、私からも感想をお話ししたいと思います。

まず、実行計画の見直しの時期でしたので、所管課としても、今回の評価はいろいろな見直しに動いていたように思います。その意味では、例えば、計画の見直しの時期のみ重点的に評価を行うなど、外部評価の仕方を変えてみてもいいのではないかと思います。

それから、設定された指標がどれほど達成されているかを見るのが評価の中心となっていると思いますが、複数ある指標の中で達成されているものもあれば達成されていないものもある場合、評価として「総合的に見て計画どおり」となったりする点に、違和感を持ちました。

また、計画事業1「特別区のあり方の見直しと自治権の拡充」のように、4、5年ではなかなか事業が動かず、ずっと同じ評価結果とならざるを得ないような事業を評価するのはどういうことかということ、今回は考えさせられたと思います。

それから、協働についてです。これまで協働を重視してきましたが、その視点からの評価がおろそかになっていないかと考えながら評価しました。しかし、取りまとめ案を見ますと、それなりに充実していますので、風化はしていないように思います。この点については、今後どうあるべきか議論していきたいと思います。

【委員】

参考に伺うのですが、これだけ事業がある中で、こんな事業は不要であると思ったような事業はなかったのでしょうか。というのも、このままだと事業がどんどん増えていくように思うのです。

【会長】

計画事業の場合は、必ずしも事業が増え続けるということではないと私は思います。総合計画や実行計画の移行によって、事業の再編等がされることがありますので。

一方で、経常事業は継続して実施していくという印象があります。しかし、その場合でも、やはり廃止になった事業はあると思いますが。

委員の発言の趣旨は問題提起だと思いますが、計画事業については、終了するものはたくさんあると思っています。

それから、先ほどから委員の何人かが発言されていたように、区長と区議会が区民に約束した事業ですので、特に計画事業の場合は、こんな事業は必要ないという判断を我々外部評価委員ができるものではないかと思います。それでも、先ほど委員がおっしゃったように、その事業の効果的な実施方法の提案などを考えていく中で、場合によってはその事業の核心的な内容について問題提起をするということもあり得なくはないと、個人的には考えています。

それでは、引き続きご感想をお願いします。

【副会長】

これほどの重労働が必要とされる仕組みが成り立っていることがすごいと思います。ほかの自治体では、これほどたくさんの事業には目を通しません。これは、区民が関心を持って関わっているということであり、新宿区の民主主義の熟度が高いと思います。

それから、内部評価を外部評価するということはやはり難しいと思います。区長や議会によって決めたことを否定するためのものではありません。仮に、そうしてしまうと、選挙で選ばれていない者が事業を動かすこととなり、民主主義に大きく反することになります。事業がうまく推進されているのかを見るものです。非常にもどかしいところではありますが、本日の議論はその点が少しあいまいになっていたように思います。

新宿区の行う事業の全体像が見えない中で、目標値が適切であるかなど、各事業を評価することは難しかったと思いました。例えば、ヒアリングの中でも、「それは経常事業の範疇です。」といったやり取りもあったので、その辺りのことが非常に難しかったです。

それから、無理やり数値目標を設定することの限界というものを感じました。

また、限られた時間の中で判断するのが難しかったと思います。

内部評価を行い、かつ、外部評価のヒアリングを受けることに、区としてどれほどの労力を割いているかということも、とても気になりました。このままのやり方を引き続き行っていくのか、振り返りが必要だと思います。

それから、この委員会の場合は、普段自分が会わないような方と会える素敵な場でした。異なる考え方や、行政がどういうスタンスで仕事をしているかなどを垣間見ることができました。

これらを自分の普段の生活や地域に持ち帰り、仲間と共有することができれば、この委員会の意味が増すのではないのでしょうか。

区民の立場としては行政への要望はたくさんあるが、それを全てかなえようとしたら行政は当然パンクしてしまいます。区民がやるべきこと、譲り合って我慢するべきこと、考え方を根本的に変えないといけないことがあって、行政はそれら全体を踏まえた上で進めているのだということを区民一人ひとりが理解し、それを周囲に伝えていくことが大事であり、それが役割でもあります。

最後に、この重労働の結果に対して、行政がどう真摯に受け止め、考えたかということが明らかになればいいと思います。つまり、「区の総合判断」の先が見えればいいということです。検討した結果、この部分を取り入れた、検討したけれどもできないという部分が見えないのが惜しいと思います。

来年度の評価の進め方については改善の余地があるのではないのでしょうか。例えば、毎年度全事業を評価するのではなく、重要な事業を抽出し、場合によっては視察を行うなど、より深い評価ができればよいと思います。

【第2部会長】

意見がとても多く、時間が足りないと思うことが多々あったが、何とか意見をまとめることができました。

それから、提案型の意見がたくさん出ました。ですが、出てきた意見がその事業の根幹にどこまで関わるのかという審議までは、時間の都合上や紙面的な制約のためなかなかできませんでした。委員の意見やアイデアの大半は盛り込めたと思いますが、仕方なく割愛したものもあります。事業における、その意見の広がりまで考える余裕があればよかったと思います。

また、取りまとめに当たって割愛せざるを得ない意見があったと申し上げましたが、そのことによって、委員のモチベーションが下がらないかが心配です。評価とは別に、所管課に意見をきちんと伝えていくなど、いただいた意見やアイデアのいかし方を考えることも必要ではないかと思いました。

以上です。ありがとうございました。

【会長】

ありがとうございます。

今ご発言いただきました内容を私のほうで取りまとめ、報告書の中で総括意見を書いていきたいと思います。

では、本日はこれで閉会とします。お疲れさまでした。

<閉会>